

1.1. 急性心筋梗塞患者に対する

入院当日若しくは翌日におけるアスピリン等投与率

算式

分母対象例のうち入院当日若しくは翌日の

【分子】 処方歴に「アスピリン」「バファリン」等が処方されていた患者数

【分母】 測定期間内の退院患者のうち、退院時の主病名が「急性心筋梗塞」であり、
3日以上入院期間があり、退院時転帰は死亡以外であった患者数

※疾患コード 050030（急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞）
※ICD-10 I21\$

定義

退院時の主病名が「急性心筋梗塞」で3日以上入院しかつ死亡以外の患者のうち「アスピリン」「バファリン」等が処方されていた患者の割合

指標の解説

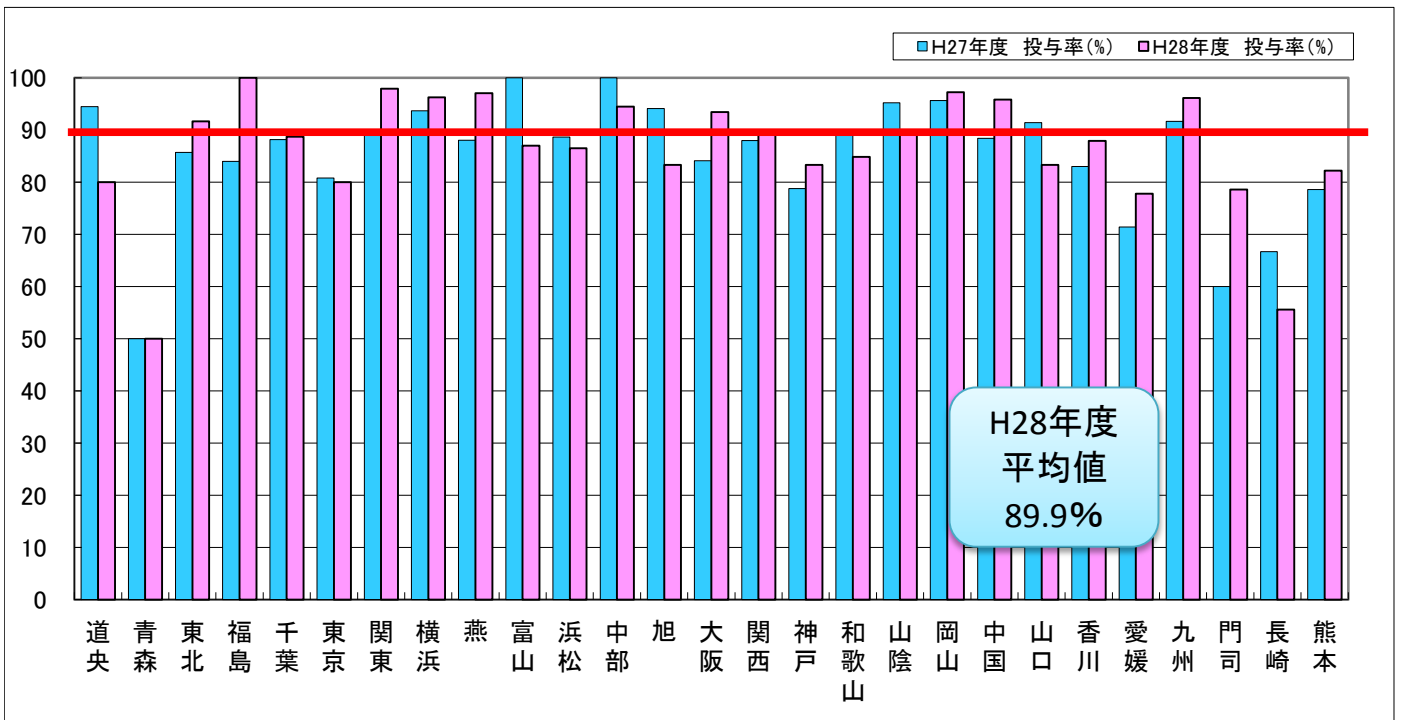
DPCデータより抽出

医学的根拠（EBM）に基づく標準的な医療の提供に関して、退院時の主病名が「急性心筋梗塞」であり、3日以上入院期間がある患者へのアスピリンの投与について入院当日若しくは翌日におけるアスピリンの投与状況から評価する。

急性心筋梗塞の再発予防は重要であり、アスピリンの投与は急性心筋梗塞の予後を改善させるため、標準的な治療の一つとされている。

投与率が高い場合は、標準的な診療が適切に行われていると評価できる。

1.1. 急性心筋梗塞患者に対する入院当日若しくは翌日における アスピリン等投与率



No	施設名	H27年度			H28年度		
		分母	分子	投与率(%)	分母	分子	投与率(%)
1	道央	18	17	94.4	15	12	80.0
2	青森	2	1	50.0	2	1	50.0
3	東北	7	6	85.7	12	11	91.7
4	福島	25	21	84.0	25	25	100.0
5	千葉	59	52	88.1	53	47	88.7
6	東京	26	21	80.8	25	20	80.0
7	関東	50	45	90.0	48	47	97.9
8	横浜	95	89	93.7	106	102	96.2
9	燕	25	22	88.0	34	33	97.1
10	富山	16	16	100.0	23	20	87.0
11	浜松	44	39	88.6	37	32	86.5
12	中部	39	39	100.0	36	34	94.4
13	旭	17	16	94.1	18	15	83.3
14	大阪	151	127	84.1	122	114	93.4
15	関西	108	95	88.0	75	67	89.3
16	神戸	33	26	78.8	42	35	83.3
17	和歌山	37	33	89.2	33	28	84.8
18	山陰	63	60	95.2	77	69	89.6
19	岡山	23	22	95.7	36	35	97.2
20	中国	43	38	88.4	48	46	95.8
21	山口	35	32	91.4	42	35	83.3
22	香川	47	39	83.0	58	51	87.9
23	愛媛	21	15	71.4	27	21	77.8
24	九州	24	22	91.7	26	25	96.2
25	門司	10	6	60.0	14	11	78.6
26	長崎	6	4	66.7	9	5	55.6
27	熊本	28	22	78.6	45	37	82.2
合	計	1,052	925	87.9	1,088	978	89.9
平均	500床以上	75	67	89.1	67	63	94.0
	400床以上	34	28	84.5	40	36	88.6
	300床以上	31	28	89.2	34	30	87.6
	300床未満	18	15	83.5	22	18	85.2

※対象症例が複数ない施設については除外した。